

品質のよい「啓翁桜」の正月向け出荷技術

山形県立園芸試験場

研究のねらい

冬から春に出荷される「啓翁桜」は、全国に誇れる山形の特産品となっている。年末から新年早々に出荷するためには休眠打破処理が必要なことから、この時期に品質の良い「啓翁桜」が出荷できる適切な休眠打破処理法を開発した。

研究の成果

年末から正月出荷の「啓翁桜」の休眠打破処理法として、温湯処理（40・60分間浸漬）直後にGA（ジベレリン）25～50ppmを十分に散布すると、開花率80%以上が確保できる（図1）。

この処理法で休眠打破した「啓翁桜」は、花卉の展開がよく花が大きくなるなど品質が向上する。また、花梗が適度に伸長し見栄えが良くなる（写真1）。

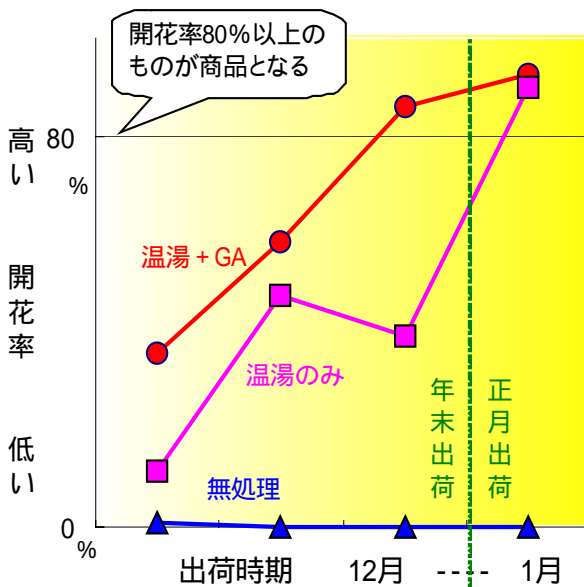


図1 出荷時期と処理方法別の開花率



写真1 開花した啓翁桜